

## 目次

<b>ABSTRAK</b> .....	i
前書き.....	ii
謝辞.....	iv
目次.....	vi
<b>第1章序論</b>	
1.1.研究背景.....	1
1.2.先行研究.....	8
1.3.研究目的及び研究課題.....	9
1.4.課題制限.....	10
1.5.研究成果.....	10
1.6.研究方法.....	11
1.6.1 調査対象.....	11
1.6.2 使用題材.....	11
1.6.3 談話データの分析方法.....	12
<b>第2章基礎論理</b>	
2.1.視点.....	14
2.1.1 「視点」の定義.....	14
2.1.2 視点の置き方タイプ.....	

2.2.視座構文的手がかり .....	15
2.3.授受表現.....	16
2.3.1 定義.....	17
2.3.2 ウチ・ソト.....	17
2.4.久野(1978)の仮説に従って視点と授受表現.....	17
2.4.1 共感度.....	18
2.4.2 視点のハイアラーキー.....	18
2.4.3 授与動詞の視点制約.....	20
2.4.4 「視点の一貫性」 .....	22
	24
<b>第3章研究方法</b>	
3.1.研究方法.....	31
3.2.調査対象及び使用題材.....	31
3.2.1 調査対象.....	31
3.2.2 使用題材.....	32
3.3.データ収集の方法.....	
3.3.1 オンライン検索.....	33
3.3.2 調査対象としての IJFL 作文テスト.....	33
3.3.3 ストーリーテリング.....	33
3.4.データ分析方法.....	34
	34

3.4.1	データ収集.....	35
3.4.2	データ分析.....	
第4章データ分析及び研究の結果		
4.1.	インドネシア教育大学で日本語を専攻する学期6の学習者を調査対象としてIJFLの視点の置き方習得.....	37
4.2.	「視点の一貫性」による、適格文と自然文から見たどのような、UPIで日本語を専攻する学期6の学習者を調査対象としてIJFLの談話の視点習得.....	75
4.3.	第二言語の日本語で授受表現使用の談話を展開する際に、UPIで日本語を専攻する学期6の学習者を調査対象としてIJFLの談話の視点習得はどのような干渉があるか.....	126
4.3.1	IJFLの談話展開における固定視点習得と母語干渉.....	132
4.3.2	IJFLの「視点の一貫性」習得.....	
第5章結論及び提案		
5.1.	結論.....	137
5.1.1	インドネシア教育大学で日本語を専攻する6学期の学習者を調査対象としてIJFLの視点の置き方習得.....	137
5.1.2	「視点の一貫性」による、適格文と自然文から見たどのような、UPIで日本語を専攻する学期6の学習者を調査対象としてIJFLの談話の視点習得...	139
5.1.3	第二言語の日本語で授受表現使用の談話を展開す	

る際に、UPIで日本語を専攻する学期6の学習者	
を調査対象としてIJFLの談話の視点習得はどの	
ような干渉があるか.....	141
5.2.提案.....	143
参考文献.....	143
資料	

